

ワークサンプル幕張版（MWS）新規3課題の活用モデルの作成について（経過報告）

○藤原 桂（障害者職業総合センター 主任研究員）

田村 みつよ・村久木 洋一・武澤 友広・知名 青子・大谷 真司（障害者職業総合センター）

1 はじめに

障害者職業総合センター研究部門で開発を行ってきたワークサンプル幕張版（以下「MWS既存課題」という。）は2007年度より市販され、作業遂行上の特性のアセスメントや作業遂行力向上のトレーニングのために、様々な就労支援機関等で広く活用されている¹⁾。2019年には、就労支援機関等の利用者の状態像が多様化していることを受け、MWS既存課題よりも難易度が高く、現在の実務に近い新規のワークサンプル3課題（給与計算、文書校正、社内郵便物仕分）（以下「MWS新規課題」という。）を開発し、市販するに至っている²⁾。

MWS新規課題はMWS既存課題よりも課題の難易度が上がっただけでなく、課題の構成や採点も複雑化している。このような事情から、MWS新規課題を活用する支援者への負担は、MWS既存課題と比べて大きくなっていると考えられる。

そこで、これからMWS新規課題の活用を考えている、あるいは既に導入したが効果的に使えているか不安だという就労支援機関等への情報提供の必要性が考えられた。提供する情報は、障害者職業総合センター（2019）²⁾で述べられたMWS新規課題を実施する際の留意点（「新規課題を活用するタイミング」「モチベーションの維持」等）をもとに検討し、地域の就労支援機関等を利用する多様な対象者や各機関が担っている機能に応じた活用方法として示すことが必要である。これらの視点をもとに、MWS新規課題の活用

方法を提案するための「活用モデル」の作成を目的とする調査研究を2022年度から2023年度にかけて実施することとした。

本稿では、この調査研究の計画概要や進捗状況、調査結果の一部について報告する。

2 研究計画

本調査研究の研究計画は以下のとおりである。

(1) アンケート調査

地域障害者職業センター（以下「地域センター」という。）、MWS新規課題を購入した就労支援機関等を対象にMWS新規課題の活用状況を調査する。

(2) ヒアリング調査

障害者職業総合センター職業センター（以下「職業センター」という。）、地域センター、地域の就労支援機関等を対象にMWS新規課題活用事例の収集を行う。

(3) 活用モデル（案）の作成

(1)(2)を踏まえて、「活用モデル(案)」を作成する。

(4) 専門家ヒアリング

外部専門家からの意見を踏まえて「活用モデル(案)」を改善する。

(5) 実装評価

(1)～(4)を通じて作成した活用モデル案を地域の就労支援機関等での支援の中で使用・評価してもらい活用モデルを完成する。

表1 ヒアリング調査結果（事例収集）

事例	障害名（課題）	課題の使用目的	使用した効果	
A	注意欠如多動性障害 (スケジュール管理)	①社内郵便物仕分 (訓練版)	自分自身で工夫（補完方法を活用）することで課題のレベルが上がっても、続けて取り組めることが分かり、自信につながった。	
		②給与計算（訓練版）		
		③文書校正（訓練版）		
B	注意欠陥多動障害 (メモを取ること)	社内郵便物仕分 (訓練版)	作業管理支援への準備	課題の内容等について自らの意見を述べる場面があった。コミュニケーションを振り返るきっかけとなり、対人技能等の訓練を受けたり対処方法の検討につながった。
C	・アスペルガー症候群 (集中の困難：背景に睡眠管理の不調)	社内郵便物仕分 (訓練版)	作業管理支援への準備	いくつかのケアレスミスがあったことから作業手順以外に、あて名の確認、ファイルに確実に入れるようによく見る、などの注意ポイントが理解された。作業中の様子を振り返る中で睡眠のあり方について見つめ直した。

3 研究の進捗状況

(1) アンケート調査

2022年7月6日～7月21日の間に地域センター及びMWS新規課題を購入した就労支援機関等を対象にMWS新規課題の活用状況に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査の内容及び集計結果等については、本論文集の『ワークサンプル幕張版(MWS)新規課題の活用状況調査報告』で速報値として示した。

(2) ヒアリング調査

2022年6月30日、7月1日に職業センターで就職又は復職に向けてMWS新規課題を活用した支援を受けている利用者に関する事例を収集した。ヒアリングは職業センターの障害者職業カウンセラー等に対して行った。収集した事例を表1に示す。事例は3名の利用者(A～C)に関するもので、事例Aでは3つの課題の訓練版を行い、他の2名は社内郵便物仕分の訓練版を行っている。また、どの事例も、社内郵便物仕分については職業センターが行う「作業管理支援(※)」のプログラムへ参加するための準備として行われている。事例Aについては自ら実効性のある補完手段を工夫していったとされており、事例Cについては睡眠の不調という課題を見つめ直した、とされている。

(3) 活用モデルの検討

ア 活用モデルを作成する上で考慮する条件

活用モデルを作成するにあたり、以下の点を考慮することとした。

- ①活用モデルでは、MWS新規課題を実際の支援の中でどのように使えば良いのかを支援者に分かりやすく伝えるため、MWS新規課題の対象者像、活用する場面、活用するタイミングなどを概念図としてまとめた内容とする。
- ②MWS新規課題を使った経験がない支援者も、活用方法のイメージが持てる内容とする。
- ③MWS新規課題を既に支援の中で活用している支援者に対しても、活用方法の参考になる内容とする。

イ 活用モデルの構成

活用モデルは以下の内容、構成とする。

- ①MWS新規課題の適用対象：適用対象となる対象者像(障害特性など)を説明する。
- ②活用するタイミング：職業リハビリテーションの中のどのタイミングで使用できるかを説明する。
- ③活用する目的：MWS新規課題がどのような目的で活用できるかを説明する。
- ④効果：MWS新規課題を活用することによる効果について説明する。

ウ 活用モデルの作成方法

活用モデルは、主に先行研究、アンケート調査及びヒアリング調査で収集した事例をもとに、MWS新規課題の簡易版

3課題と訓練版3課題のそれぞれの課題毎に活用モデルを作成し、それ以外に参考となり得る活用方法を示す事例がある場合はこれについても活用モデルとしてまとめることとした。

エ 最終成果物の検討

本研究で開発した活用モデルについては、作成予定の「ハンドブック(仮称)」(以下「ハンドブック」という。)に掲載する予定である。なお、ハンドブックは表2の構成を予定している。3(2)で示した職業センターへのヒアリング調査結果についても、今後行う地域センター及び地域の就労支援機関等へのヒアリング調査結果と併せて表2の「活用事例」にまとめる予定である。

表2 ハンドブックの構成

1	留意事項	MWS新規課題には、MWS既存課題とは異なる開発の意図や、使用する上で留意すべき点があるため、それらの留意点をまとめて掲載する。
2	活用モデル	MWS新規課題の対象者像、活用する場面、活用するタイミングなどを概念図としてまとめる。
3	活用事例	活用モデルに書かれた内容を具体的に理解する資料として、先行研究及びヒアリング調査結果をもとに作成した支援事例(活用事例)を掲載する。
4	Q&A	アンケート調査やヒアリング調査の中で収集した支援者からの質問や疑問等をもとに、解決策が提案できる事項については回答を掲載する。

4 今後の研究活動について

アンケート調査の回答の中に示されている「MWS新規課題を活用していない理由」については、活用に向けて可能と考えられる方策を検討し、様々な質問等についても可能な限り回答を検討し、支援の場に役に立つハンドブックを作成することとしている。

※作業管理支援とは職業センターが開発した、発達障害者を対象に「時間見積もり」「段取り」「優先順位付け」などの作業管理上の課題を受講者とともに評価し、対処方法を検討するための支援方法プログラム³⁾。

【参考文献】

- 1) 障害者職業総合センター『障害の多様化に対応した職業リハビリテーション支援ツールの開発ーワークサンプル幕張版(MWS)の既存課題の改訂・新規課題の開発ー』、『調査研究報告書No.130』,(2016),p.12
- 2) 障害者職業総合センター『障害の多様化に対応した職業リハビリテーション支援ツールの開発(その2)』、『調査研究報告書No.145』,(2019),p.193-194
- 3) 障害者職業総合センター職業センター『発達障害者のワークシステム・サポートプログラム 在職中又は休職中の発達障害者に対する作業管理支援』、『実践報告書No.39』,(2022)